

平成25年度第7回旭市道の駅建設準備委員会 会議録

日 時：平成25年11月1日（金）

午後4時～午後5時15分

場 所：市役所3階委員会室

事務局：企画政策課

外部アドバイザー：(株)船井総合研究所

1. 開会

代理出席（大久保委員代理 農水産課川口主幹）

欠席（林委員、加瀬委員）報告

2. あいさつ

委員長：お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。また、第3セクター設立作業部会の方においては、引き続きよろしく申し上げます。今後も重要な議事内容になりますのでよろしくお願いいたします。

3. 議題【道の駅運営に向けた検討項目】

（1）作業部会からの報告について

○平野部会長より報告

皆様ごくろうさまです。本日2時より開催しました第2回第3セクター設立作業部会の会議内容について報告します。議事内容である売上げの確定については、欠席委員の都合上野菜についての詳細の検討が出来なかったが、花木部門については委員より花かご等の加工についての検討をすることのことで、その他としては旭市では野菜の苗の需要が非常に高いため、花木コーナーにおける取り扱いを検討すべきとの意見がありました。また、パンは是非取り扱うべきと議論されました。アイスについても意見があり、現在想定している売上げよりも多くの売上げが可能であるとの心強い意見をいただきました。またアイスのみでなくコーヒーと併せて販売することで相乗効果が図れるとのことでした。海産物においては水産加工組合が様々な加工品販売が可能であるとの積極的な意見もありました。またイベントについては、道の駅には必要不可欠な要素であり集客アップのため季節ごとや毎月の開催、あるいは毎週開催してもいいのではとの意見がありました。また資本金については、これまでも市が50%以上保有するということが一貫して議論されてきましたが、運営における安定感を出すためには市が3分の2以上保有することも必要ではないかと議論されました。以上1時間45分にわたり各委員より活発な意見をいただき様々な議論をいたしました。報告は以上です。

委員長：作業部会の報告について、何か意見はありませんか。

各委員：特に無し。

(2) 駅長の選定等について

※事務局より説明

・用地買収について進捗状況の報告

全体の3分の2(面積的には80%)の契約が完了し、年内の全件契約を目指している。

・出資について、市内の金融機関である旭市金融団への計画説明について報告

・駅長選定に関する報告

現在数名の推薦を受けているところであるが、相手方の都合もあるため推薦されている全員が候補者となるわけではない。また推薦していただいた方や推薦された当事者についても個々の事情があり迷惑がかかってはならないので、現段階では名前等の公表は差し控えさせていただきたい。今後も年内を目処に委員の皆様から市外も含めた推薦をお願いしたい。

(3) 視察研修の報告について

※「思川」及び「まくらがの里こが」について、事務局からの事前質問に対する回答、両駅の施設や運営に係る状況、各委員からの感想等について報告

各委員からの意見

委員長：「こが」は全国でも最新の施設整備であり、茨城県内では施設規模もトップクラスである。

委員：施設中央のシンボルが夜間ライトアップしているように見えてきれいである。

委員：「思川」と「こが」のそれぞれの支配人及び駅長から様々な話を伺ったが、生産者との調整がいかに重要であるか再確認することができた。今後旭市の道の駅においても様々な課題が出てくると思われるが、消費者が満足できるような品揃えができるよう努力しなければならないと感じた。

委員：「思川」のアイス販売は地元の牧場が経営しており、特産品のはと麦をローストしたジェラートがあった。客の要望からコーヒーの提供を始め好評であるとのこと。「こが」はジェラートについては直営であり、道の駅付近の苺農家が生産したものを販売している。「こが」においてもでも「思川」と同様にコーヒーの提供を行っていた。これはイタリアでも定番のスタイルである。

委員：小山市(思川)の道の駅整備の理由は、88品目ある小山ブランドの販売拠点として整備計画を立てたとのこと。他との差別化を図るため旭市においても独自ブランド開発が必要ではないかと感じた。また、生産者組織との関わりについて、旭市においても慎重に決定しなければならないと感じた。また、駅長選定においては販売流通業に精通している方が望ましいのではないかと感じた。

委員：「思川」の名称に非常に魅力を感じたが、旭市の名称はいつどのように決まるのだろうか。また、旭市はどのような運営形態を取り、経営戦略については誰が主導権を握るのか等の具体的なスキームがまだ見えてこないのが、今後議論していきたいと感じた。また、施設については客の動線を最初からイメージして整備するべきである。

委員：「思川」のレジ位置が入口付近に設置してあり利用しやすかった。両駅を見て感じたのは、旭市の道の駅の成功に向けて、生産者組織のみでなく消費者についても組織やグループを構築してはどうか。例えば消費者グループ等と毎月道の駅との意見交換会を行うなどして、直接消費者の意見や要望を運営に反映できるようなシステムづくりをすれば、単にアンケート等にも頼ることなく客が利用しやすい施設整備や運営ができるのではないかと。また、そういったグループが口コミで広げてくれたり、新規の客を呼んでくれたりといい効果にも繋がるのではないかと。

委員：駐車場の配置関係について、「思川」は店舗前面に車が整然と並べられており、普通車と大型車の区分も明確で非常に動線がよく、利用しやすかったと感じた。

委員長：「思川」と「こが」の決定的な違いは、第3セクターと民間事業者といった経営者の違いであろう。

アドバイザー：運営内容や施設整備については、「思川」が旭市の整備するイメージに非常に近いので、今後も様々な点において参考にしていきたいと考えている。旭市については「思川」の約70%位の運営・整備と考えるとイメージしやすいだろう。基本的には奇をてらわずシンプルで分かりやすい施設整備を心がけるべきである。また、ちょっとした工夫を重ねることが成功の秘訣になる。両駅とも付加価値としてパンとジェラートを取り扱っていたが、この2つは旭においても是非実施するべきである。

(4) 設計業務の経過報告について

※事務局より設計についての進捗状況等の報告

・施設外観「A案」及び「B案」の決定を本日したい。

各委員からの意見

委員：「A案」の方が印象的であり、アピールを考えるとよいのではないかと。また吹き抜けもあり、ゆとりある感じがする。

委員：「A案」がよい。

委員：「A案」の方が明るいイメージがあってよい。

委員：視察した「こが」が「A案」と「B案」をミックスしたような感じであった。施設のシンボリックには「A案」がよいと思うが、現在の図案だと少し冷たい感じがするため、若干温かみを持たせる意味では外壁イメージは「B案」という考え方もあるのではないかと。

委員：どちらかというと「A案」がよいが、少し冷たい感じがする。

委員：イメージ的に「A案」がよいと感じる。

委員：「A案」の方が太陽光発電設備の整備がしやすいのではないかと。また、シンボリックな円塔部分が照明により夜間は目立ち、看板的な効果があるのではないかと。

委員：みなさんの意見と同じで「A案」がよいと感じる。

委員：「B案」は和風で建設地との調和が取れて落ち着きがあるが、「A案」の方が明るい感じがする。今後施設に飾り付け等をしたときに「A案」の方がインパクトを与えやすいので、特徴を出せるのではないか。

委員：A案がよい。

委員：遠目に見て目を引くのは「A案」でありよいと思うが、シンボルの部分にもう少し工夫が必要かなと感じた。「B案」は回りの景色に溶け込みすぎて特徴が出せないのではないか。

委員：前回委員会では「B案」もよいと思ったが、「A案」の方がインパクトがあるのではないか。

委員：太陽光発電設備を考えると「A案」がよいのでは。発電効率のいい屋根の角度等も最初から検討しておけば効率がよいのだろう

委員：「A案」の方が九十九里海岸等をイメージできるすっきりした感じがするので、旭にふさわしいのではないか。

委員長：「A案」の方がシンプルでよい。屋根等の形状が複雑だと整備後のメンテナンスで費用がかかることになるし、太陽光発電設備にも適しているのではないか。またシンボル部分が夜間目立つことで特徴を出すことができるだろう。

アドバイザー：施設外観については「これでなくてはならない」という決まりは無いため非常に難しい問題ではあるが、個人的な意見としては「A案」は少し冷たい感じがする。旭市の道の駅は農産物直売が施設のメインであるため、そういった雰囲気も「A案」に取り入れつつ工夫するべきではと感じた。

委員長：委員の皆様の意見は「A案」で統一されたということでよいか。

各委員：特に無し。

(4) その他

- ・地元産のかんしょ（黄金千貫）による地元特産品開発商品発表会・試食会について宇畑委員より紹介

委員長：パン工房や惣菜等の加工施設の厨房機器等の設備投資については誰（行政、第3セクター、出店者）が整備するのかといった内容も議論しなければならないので今後議論をよろしくお願いしたい。